


健康登山52:周辺の山25 (湖南 飯道山)

コース	黄瀬バス停 0.7km/17 0.6km/37	紫香楽宮跡 2.7km/41 飯道神社 0.6m/31	鳥居 0.8km/20 行者コース 0.9/25	宮町登山口 0.3km/11 杖の権現 2.5km/57	飯道山 0.3km/11 三大寺登山口 2.8km/39	JR貴生川駅
水平距離	11.9km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km			
水平換算距離	13.9km					
累計高低差	登り537m、下り643m					
標準歩行時間	4 : 38					
実績歩行時間	5 : 16					



山行報告

山行日 2009・11・5 (木) 天候 曇り 参加者 7名

行動 JR石山寺駅8:40 黄瀬9:44 紫香楽宮跡10:13 鳥居10:56 宮町登山口11:30 飯道神社(昼食)12:01~12:34 行場コース周回13:04 飯道山13:44 杖の権現14:04 休憩所14:40 三大寺登山口15:10 貴生川駅16:00~16:33 京都駅着17:33

記録

湖南には健康登山に適した山が多く、近場でもあるので細かく拾って行こうと思っている。今回はほとんどのガイドブックで紹介されている著名な飯道山に登った。石山駅から信楽行のバスに乗り黄瀬で下車、栗拾いをしながら紫香楽宮跡へ向う。7月にも立ち寄った紫香楽宮跡を金堂趾、講堂趾、僧房趾を見ながら北へ通り抜け、その後は県道53号線を鳥居まで2.4km歩いた。歩道があり交通量も少ないので安心して歩ける。鳥居からゴルフ場横の道を800m、高度差で100m登ると駐車場があり、そこが宮町登山口である。登山口には飯道神社まで7丁と書かれていて、参道には丁標がある。急坂だが30分ほどで飯道神社まで登れる。神社前からは西側の景色が見られ歩いてきた道程が確認できる。参拝をした後、昼食をした。昼食中にたくさんの方が飯道神社へお参りに来られた、三重県からバス2台で来られたツアー登山とのことだった。昼食後、行者コースの周回を試みた。天狗の岩、不動の押し分け岩、平等岩などがありかなり険しい、最後に蟻の戸渡りがあったが危険すぎるのでここは巻き道を歩いた。くさり場もありスリルを味わった30分間だった。神社からは尾根道を通って飯道山へ向った。飯道山からは北側の展望が開けていて次回予定している阿星山が正面に見え、三上山も眼下に見えた。集合写真を撮影後、杖の権現へ下り、ここから東へ向かって垢離坂、左羅坂などと書かれた荒れた谷道を下った。しばらく進むと道は林道になり『松茸山入山禁止』の立札を回収中の軽トラックに出会った。飯道山休憩所を過ぎたところに庚申山への分岐がある。庚申山へ回ると車道歩きが7.5kmで2時間以上かかるので庚申山登山は止めて三大寺登山口へ向った。広域農道の陸橋を越えたところが三大寺登山口で、日吉神社と飯道寺を通ってJR貴生川駅へ向った。貴生川駅着は丁度16時だった。

周辺の山（湖南 飯道山）



紫香楽宮跡へ
10:01

紫香楽宮
(金堂跡)
10:13



鳥居
背景は飯道山
10:56

宮町登山口
11:25



参道を登る
11:44

飯道神社
12:01



行場めぐり
12:47

飯道山頂上
13:44



杖の権現
14:03

日吉神社へ向う
15:14



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：湖南 飯道山）

参考資料 京都滋賀南部の山、ホームページ他より

- ◎ 紫香楽宮跡：聖武天皇が手掛けた幻の宮。

平城京から山城加茂の恭仁京を経て、天平 14 年(742)紫香楽に新たな都の建造に着手。天平 17 年、相次ぐ山火事や地震で、宮建造をあきらめ、再び平城京に帰っていきます。

この紫香楽宮跡は国史跡に指定されていましたが、平成 12 年秋、2 km 北の宮町遺跡が発掘によって本来の宮殿跡であり、この地は甲賀寺跡であることが解ってきました。

- ◎ 甲賀寺(跡)：聖武天皇が天平 15 年(743)10 月、蘆舎那仏金銅像造立の詔をだし、東大寺に先がけて、東西 106m、南北 115m の甲賀寺に大仏を造ろうとしたが、たびかさなる禍があるなどで、都は平城宮に移され廃都となった。

東西 106m、南北 115m、に 300 余の甲賀寺の礎石が残っている。

大仏は東大寺に引き継がれ、天平勝宝 4 年(752)奈良で完成した。

- ◎ 飯道神社：祭神は伊弉冉尊、速玉男尊、事解男尊、(熊野三所権現)が祀られている。熊野神社遥拝所。

延喜式神名帳に記載されている古社。本殿は慶安 3 年(1650)に建てられた唐破風造りで、国重文になっている。

本殿裏に行場巡り(行程 350m、30～40 分)があります。

- ◎ 飯道山：664.2m 二等三角点

金勝アルプスの東端にある山。信楽、水口、甲西の三町にまたがる。

「近江の大峰山」といわれ、山伏の修験場であった。奈良時代に「飯道寺」が建立され、飯道神社の神宮寺で紫香楽宮の鬼門守護の役目を果たした。

飯道寺は役の小角によって開かれた寺と伝える。

平安時代全山に 36 もの僧坊が建ち並び、仏教の一大中心地として栄えた。

飯道山の神は、農耕の神であったが、平安、鎌倉期から明治初期まで飯道山修験道の拠点山として栄え、山頂には山岳寺院の飯道寺があった。

南北朝期には飯道寺城(城郭)が築かれている。

明治の神仏分離で山頂の寺は廃絶し、飯道神社は信楽宮町の鎮守として残った。後に水口村(町)の本覚院が飯道寺(天台宗)の寺号を継ぎ山の北麓にある。

展望は北に比良連峰。西北に大納言(手前)、阿星山(奥)、金勝山(左)。

南に笹ヶ岳、童仙房高原、鷲峰山(左)。

正面東に南鈴鹿山脈の油日岳、那須ヶ原、高畑山。

織田信長も国見したらしい。寺領を安堵されている。

【飯道山の山名謂われ】

*祭礼の際飯を円錐形の形に盛って供えたことから、飯道山の名がきているといわれる。

*また、昔この山で杣人が道に迷い、神仏を念じていると、一羽の鳥が米飯をついばみながら歩いてきた。杣人がその鳥に付いていくと、山上に達し、そこで権現様のお姿を拝した。そこから飯道山の名がついたという。

◎ 庚申山 : 標高 406m 展望台も整備され、飯道山とのハイキングコースになっている。

【庚申信仰】第42代文武天皇の代に疫病が流行、元興寺の護命僧正(一説では天王寺の僧)が祈祷していると「青面金剛童子」が現れ平癒させたのが、「庚申の年」の「申の日」の「申の刻」だったことからきている。

60日に一度回ってくる、庚申の日に眠ると人(宿主)の体内から「三戸^{さんし}の虫」が抜け出し、天帝(人の命を司る司命神)に、その人が犯した罪を報告し、その人の命を縮める事から、長生きを願う人は、庚申の夜は寝ないで夜を明かした。

「庚申待ち」といわれた。「宵庚申」ともいう。

*京都八坂の庚申堂は日本三庚申で最古のものといわれる。

(大阪天王寺庚申堂、東京入谷庚申堂(現存しない))

八坂庚申堂で、庚申の日にこんにやく接待がある。こんにやくを三つ食べる。堂内でお籠りもできる。0時までに入堂でき、0時閉門。

2009年の庚申の日、11月11日(納め庚申)

2010年の庚申の日、1月10日(初庚申) 3/11, 5/10, 7/9, 9/7, 11/6(納め庚申)

【広徳寺】延暦2年(783)伝教大師最澄が延暦寺建立の用材を求めて、この地に立ち寄ったところ庚申山に光り輝く紫雲を見た。山頂に登ったところ、丈余の岩の上に靈姿を感得され妙法告知を受けたといわれ、そして直ちに沐浴して尊姿(九寸)を刻してここに「庚申尊」を祀ったのが、伝教大師が開基した山頂「広徳寺」である。

本尊：青面金剛童子。

御真言：おん、でいば、やきしゃ、ばんだ、ばんだ、かかかか、そわか。

【真鍮の始祖】文禄2年(1593)山麓に住む藤左エ門なる人物は、貧農で生活が苦しく、郷を離れる決心をした。本尊を深く信心し、御すがり意で広徳寺に籠って断食し祈願したところ満願の17日目の夜、銅に亜鉛を混ぜる合金の精錬法を伝授された。

慶長4年(1599)藤左エ門は京に上りその伝授法を試みたところ、黄金色に輝く合金を得ることができた。

日本における真鍮精錬の始まりで、真鍮の元祖として広徳寺に祀られ、金属関係業界の信仰を得ている。

広徳寺の釣り鐘堂の脇に三角点がある。ここの展望台から、遠くの山々が望むことができます。

すぐ隣に、飯道山、烏が嶽。湖東の長命寺山、雪野山、織山、箕作山。

マキノの大谷山、赤坂山、三国山、乗鞍岳の山並み。

湖北の己高山、金糞山、天吉山、伊吹山。

鈴鹿の霊仙山、御池岳、綿向山、雨乞山、御在所岳、鎌ヶ岳、水沢岳、宮指路岳、仙ヶ岳、四方山。南鈴鹿の高畑山、那須ヶ原山、油日岳。

伊賀の霊山、青山高原、山並みの奥に尖った錫丈ヶ岳。

曾爾の尼ヶ岳、大洞山、俱留尊山、その後ろに三峰山が見られる。

低山でこれだけ広範囲に望める展望台は、近畿では他に例はあまりないという。

*今回、都合により庚申山登山は、コース計画に入れられませんでした。

時間にゆとりがあれば、広徳寺参道から往復なら考慮もあり得ます。

◎ 地ビール：飯道山の伏流水で作ったビール。貴生川駅から15分。貴生川郵便局近く。

「ビアレストラン寿賀蔵」330ml、600円～。(0748-63-2838)